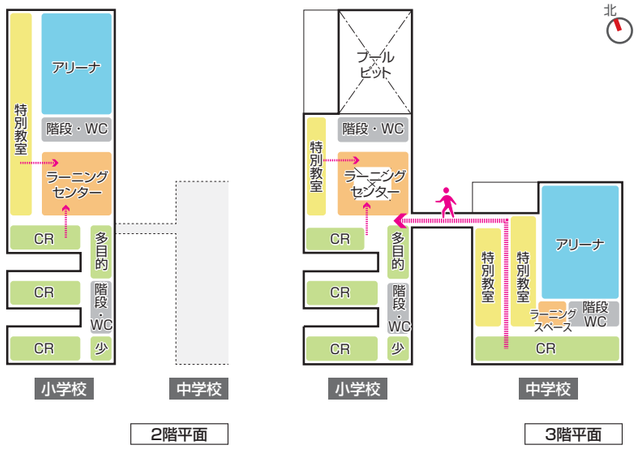
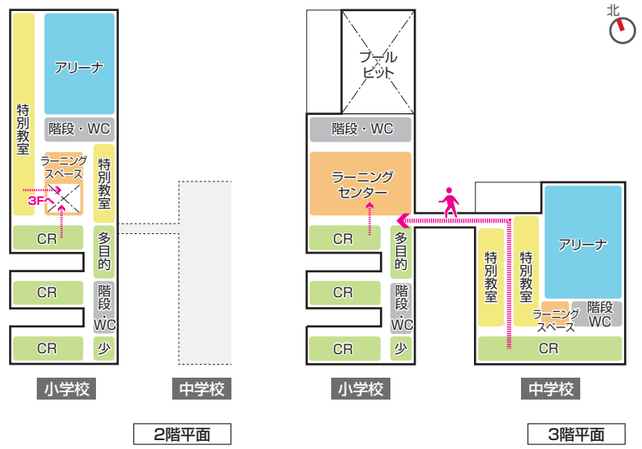
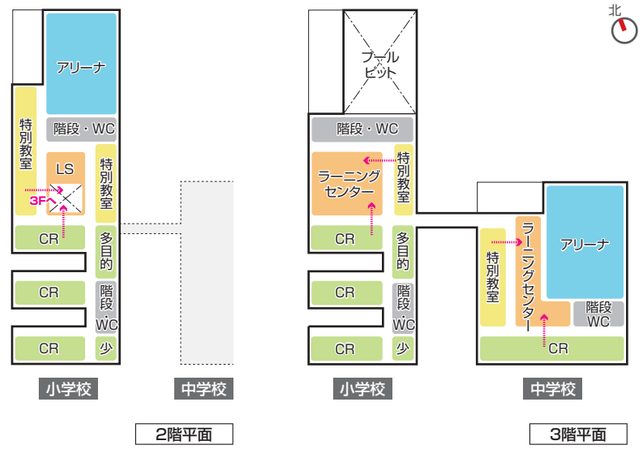
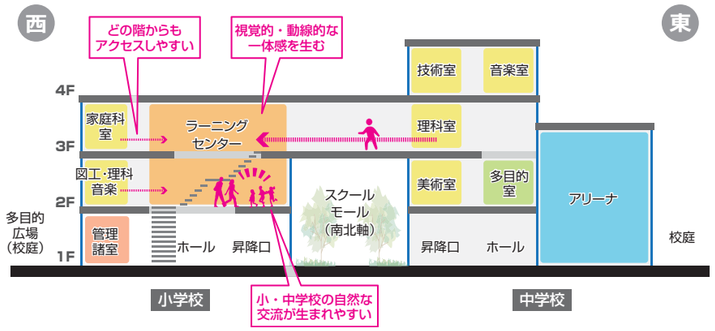
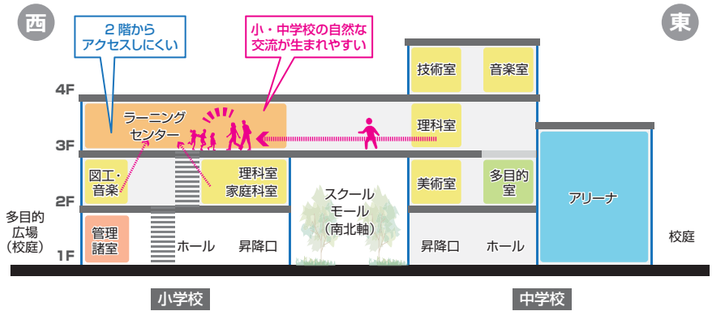
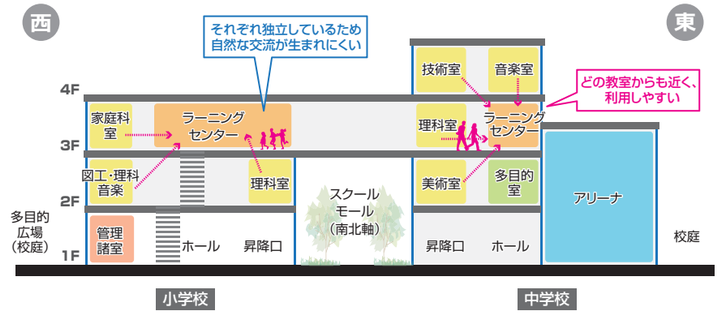
○ラーニングセンター（図書館）の考え方について

資料４

配置パターン	小・中学校で共用		小・中学校で共用		小・中学校でそれぞれ独立	
	①小学校棟２階・３階に配置（２層吹抜け）		②小学校棟３階に配置（１室にまとめる）		③小学校棟と中学校棟にそれぞれ配置	
平面イメージ						
断面イメージ						
深い学びの促進（学びの相乗効果）	◎	小・中学校の図書を学年別ではなく分野・単元別にゾーニングすることで 小学生が中学校図書にも触れられる環境づくりが可能。 ⇒児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的で 深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）を効果的に進められる	◎	小・中学校の図書を学年別ではなく分野・単元別にゾーニングすることで 小学生が中学校図書にも触れられる環境づくりが可能。 ⇒児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的で 深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）を効果的に進められる	△	小・中学校の図書館が離れているため、 小学生が日常的に中学校図書に触れることが出来ない
普通教室等からの利用しやすさ	○	小学校：児童の活動範囲の中心的な位置に配置できる 低学年教室（２階）からも利用しやすい 中学校：小学校棟に配置されるため、普通教室からの距離は遠くなる 普通教室前にラーニングスペースを計画し、図書館資料の一部を分散配架 ⇒生徒が気軽に利用できるよう工夫、調べ学習支援機能を補完する	△	小学校：児童の活動範囲の中心的な位置に配置できる 低学年教室（２階）から移動しにくく、利用しづらい 中学校：小学校棟に配置されるため、普通教室からの距離は遠くなる 普通教室前にラーニングスペースを計画し、図書館資料の一部を分散配架 ⇒生徒が気軽に利用できるよう工夫、調べ学習支援機能を補完する	○	小学校：児童の活動範囲の中心的な位置に配置できる 低学年教室（２階）から移動しにくく、利用しづらい 中学校：生徒の活動範囲の中心的な位置に配置できる
特別教室等との連携	○	小学校：全ての特別教室（図工・理科・音楽・家庭科）が図書館近くに配置されるため、 各教科等への学習支援および必要な資料・情報の利活用が可能 中学校：図書館と関連が深い理科室を渡り廊下の近くに配置	△	小学校：全ての特別教室（図工・理科・音楽・家庭科）が２階に集約 ⇒階で分断されるため、図書館とのつながり・連携が弱くなる 中学校：図書館と関連が深い理科室を渡り廊下の近くに配置	◎	小学校：特別教室の一部が２階に配置されるため、 図書館とのつながり・連携が弱くなる 中学校：各特別教室（2、3、４階）と距離が近くなるため、利用しやすい
利用率の向上	○	小学校の日常動線上に図書館を配置することで、利用率向上	△	小学校の最上階に図書館を配置することで、利用率は下がる傾向にある	○	小学校の最上階に図書館を配置することで、利用率は下がる傾向にある 中学校の図書館はどの教室からも近いので利用率は向上する
児童・生徒の自然な交流	◎	小・中学校の図書館を一体的に整備することで、 児童・生徒の自然な交流が生まれやすい 吹抜けを活かしたダイナミックな空間は学校のシンボル・核となる	◎	小・中学校の図書館を一体的に整備することで、 児童・生徒の自然な交流が生まれやすい	△	小・中学校の図書館を一体的に整備することで、 児童・生徒の自然な交流が生まれやすい
管理のしやすさ	○	吹抜け全体を見渡せる位置に学校司書スペースを計画し、 死角のない空間構成とすることで管理しやすい環境を整備 小・中学校の管理区分（学校司書の役割分担など）については検討が必要	○	フロア全体を見渡せる位置に学校司書スペースを計画し、 死角のない空間構成とすることで管理しやすい環境を整備 小・中学校の管理区分（学校司書の役割分担など）については検討が必要	◎	小・中学校がそれぞれ独立運用となるため、管理区分が明確となる 学校司書スペースをそれぞれ確保できるため、管理しやすい